

事業所名

高原クリニックデイサービス

支援プログラム

作成日

2024年

9月

9日

法人（事業所）理念	こどもと共に、職員や保護者も「育ちあう」ことができる療育をめざしています。こどもや保護者との対話を最重視し、想いや心配事にしっかり寄り添います。		
支援方針	①こども達の多様な価値観を尊重しながら、個々の発達に寄り添ったきめ細かな療育を心がけます。②成功体験を増やして達成感を味わい、こども達の自信につなげていけるような療育を行います。③児童発達支援は親子保育を基本とし、放課後等デイサービスでは、個別での療育を行っています。		
営業時間	月・木（9：00～15：00）	火・水・金（9：00～18：00）	送迎実施の有無 あり ○なし
支 援 内 容			
本人支援	健康・生活	施設長である小児科医の指導の下、こども達や職員の健康面の管理、感染症の拡大防止には留意しています。生活リズムを整えること、身辺自立をはじめとする基本的な生活能力を獲得できるように保護者からの聴き取りによる現状の把握も重要視して、家庭と連携しより良い療育環境を整えるようにしています。	
	運動・感覚	身体的な特徴（姿勢の保持・体幹の弱さ等）、感覚に関すること（過敏・鈍麻等）、手指操作の巧緻性、目と手の協応等、こども達が個々にもつ問題点などのアセスメントを行い根本的な原因を探します。その結果を踏まえ、あそびを通して直接的または間接的にアプローチし経験を積み重ね困難を克服します。	
	認知・行動	個々の行動パターンをしっかり分析・理解し、医師・心理士・特別支援教育士・保育士・言語聴覚士等、有資格者による専門的分野の視点からどのようにアプローチするのが最適なのかを考えます。認知能力（知識・学力 等）と非認知能力（意欲・意志・社会性・協調性・忍耐力 等）の両方をバランスよく育てます。	
	言語コミュニケーション	こども達が表出するわずかなサインを見落とすことなく受けとめて、意思や要求を言語化して代弁するようにしています。本人の成長段階に応じ最適なコミュニケーション法を探し、他者と気持ち（感情）を共有する喜び、伝わる事の楽しさが経験できるようにしたり、家族もこどもの気持ちがうまく汲み取れるようお手伝いします。また発達状況を鑑み、言語聴覚士の個別での介入も行っていきます。	
	人間関係社会性	初めての（小）集団への参加を経験し、人間関係・社会性の基本となる家族関係から、友達や先生などに興味関心を拡大させ就園・就学の移行がスムーズに出来るよう支援します。個々の個性を損なうことなく尊重し、与えられた環境のなかで、円滑な社会生活、日常生活が営めるようにということを念頭においた療育に努めています。	
家族支援	児童発達支援では親子通園、放課後等デイサービスでは個別での療育を行っているため、保護者としてしっかり対話し想いや心配事に寄り添います。また保護者にもスキルをお伝えし、より良い親子関係の構築をお手伝いします。	移行支援	地域の園、学校、学齢期以降の施設などについての必要な情報収集に努め、積極的に相談支援専門員や関係機関と情報共有しながら、支援ができるように準備しています。
地域支援・地域連携	相談支援専門員との連携は保てるようにしているが、地域への支援や連携は現在では行っていないのが現実です。どのような手段、方法があるのかを今後の検討課題としています。	職員の質の向上	法人内での研修（虐待、身体拘束、感染症など）及び他機関主催の研修会には、積極的に参加し、職員のスキルアップ・自己研鑽に努めています。
主な行事等	製作活動や行事を通して四季や伝統行事（節分・お雛祭り・夏祭り・お月見・クリスマス 等）に触れたり、お誕生日会や修了式等の行事も行っています。また、水防訓練や火災時の通報・避難訓練等も実施しています。		